

## 上野 仁美さん

●うえの・ひとみ  
10年3月広島国際大看護学部看護学科卒。同年4月から広島記念病院で看護師として勤務。広島県出身。24歳。



### 患者さんの笑顔を増やすために、常に成長し続けていきたい

チーム医療の一翼を担う看護師として患者さんのケアに携わる上野仁美さん。現場のスタッフや患者さんとのさまざまな触れ合いを「自分をもっと大きくなるための素晴らしいチャンス」と考え、全力で挑戦を続けています。

上野さんは小学校時代に入院した時、看護師さんに勇気付けられた経験から、看護の仕事に魅力を感じるようになりました。広島国際大を選んだ理由は、「医療系総合大学として、さまざまな学部・学科があることでした。いろいろな医療系分野の人たちと仲良くなり視野を広げられると思ったからです」

実習の多い看護学部ですが、4年次にはさらに卒業研究や就職活動も加わります。上野さんは、短期間にすべてがうまくいくだろうかと、不安になりました。しかし、「どれも貴重な経験。全力で頑張ろう」と考えを切り替えて行動したそうです。先生方や同じ目標に向かう友人たちの存在も大きな支えになりました。

「悩みを聞き、受け止めてくださった先生や仲間には、今も感謝の気持ちでいっぱいです」と当時を振り返ります。また、在学中は保健師を目指そうかと考えた時期もありました。2年次に「地域看護学」を学び、地域密着の保健・健康の大切さを感じていたからです。同時に、現場で患者さんを支える仕事にも引かれていました。そんな折に、地域に根付いた医療を行っている広島記念病院を知り、「ここでなら、看護の技術や経験を重ねつつ、地域医療にも貢献できる」と就職を決意。「医療スタッフ同士の絆を大切にしていることにも魅力を感じました」

大きな志と使命感を抱き、社会人としてのスタートを切った上野さんでしたが、「現場に立ったとき、自分が未熟だったと痛感しました」と、就職直後の様子を振り返ります。仕事について

詳細なアドバイスを受けても、初めは覚えるだけで精一杯だったそうです。しかし、1年が過ぎたころから、少しずつ自分で考え行動する余裕が生まれ、自分らしさを発揮できるようになりました。「難しいなと思っていたことが楽しくなってきたのもこのころからです」

患者さんとの交流の中に、素晴らしい出会いがあることも分かってきました。「心打たれる話を聞くこともあります。何よりも笑顔で話し掛けられると、勇気付けられますね」

現在は、担当看護師として入院患者さんのケアに当たっています。「責任と、喜びを感じる仕事」とやりがいを感じつつ、より質の高い医療を目指し、日々研さんを重ねています。将来はより地域に密着した形で、人々の健康支援ができる人材になりたいと考えているそうです。

最後に新卒業生へのアドバイスを伺いました。「組織には、あなたの良いところを見つけてくれる先輩や、あなたをもっと成長させてくれるような素晴らしい指導者が必ずいます。時には、厳しい言葉での忠告や、大き過ぎる期待に戸惑うかもしれませんが、何事も根気強く続けることです。そのような経験は、あなたを確実に成長させてくれます。着実に上達していく自分自身を楽しみながら、日々を過ごしてください」。仕事後のインタビューにも疲れを見せず、自信と誇りを持って頑張っている上野さんからの、心に響くメッセージでした。